

流行語と死語

糸原 健太郎 大森 優一 黒河 匠 中村 圭佑 福森 颯 横畑 貴俊

要旨

流行語と死語について調べた結果、その成り立ちにはいくつかのパターンが存在し、死語とならない流行語にはいくつかの共通点があることが分かった。

キーワード：流行語，死語，マスコミ，社会

1 序論

流行語とはその名の通り人々の間で流行する言葉であるのに対して、死語とは人々が既に使うことがなくなった、もしくは使うことが稀になった言葉である。多くの流行語は死語となるが、そのうちのいくつかは現在でも生き続けているものもある。我々はそれらの違いを探るため文献調査とアンケート調査を行った。

2 文献調査

湯浅茂雄は「生まれることば 死ぬことば」(アリス館)の中で「流行語とマスコミは、とても深い関係にあります。」と述べている。またその中で、「窓際族」(年配の社員で、会社であまり仕事をさせてもらえない人)という言葉は、日本経済の発展の速度が鈍くなりはじめた昭和53年ごろ流行し、消え去りませんでした。この言葉の示す意味が、新しい社会の環境を的確に反映していたからです。」とも述べている。

つまり、流行語は 「1 マスコミの影響を受けている」「2 現在の社会状況を的確に表現している」のどちらかを持っていることが、死語とならない必須条件となっていると言える。

3 仮説の設定と検証

(1) 仮説の設定

上記の結果を受け、それが本当に正しいのか否か確認するために、アンケート調査を行った。文献調査の結果を基に、次に仮説を設定した。

【仮説】 流行語として生き続けている語は、マスコミと深い関係がある。

(2) アンケート調査

かつて流行語であったが、現在、死語として扱われている言葉を10個ピックアップし、それぞれの認知度について、次のA～Cの3つのグループに分けた。

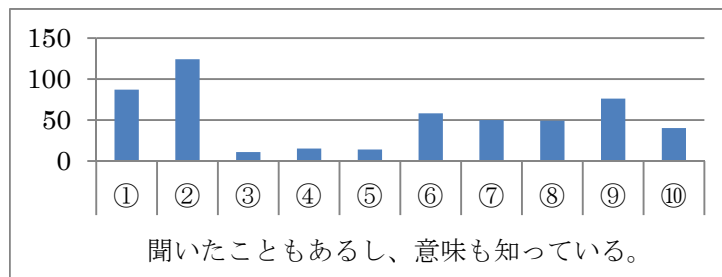
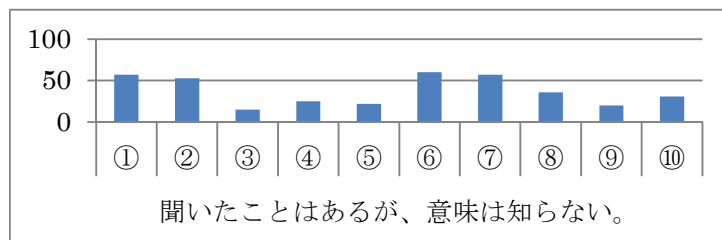
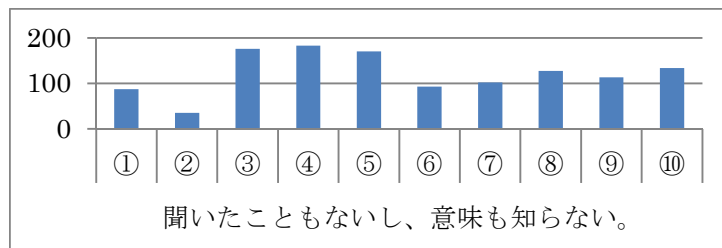
- A 聞いたこともないし、意味も知らない。
- B 聞いたことはあるが、意味は知らない。
- C 聞いたこともあるし、意味も知っている。

【調査の対象にした言葉】

- ①チョコベリバ ②ナウい ③カウチポテト ④ルートさん ⑤ホテル族
- ⑥フィーリング ⑦アバズレ ⑧3K ⑨オケる ⑩耳がダンボ

(3) 結果

次のグラフは、アンケート調査の結果である。縦軸は人数を示している。



死語の代表としてバラエティでもよく取り上げられる①チョベリバ②ナウいは仮説のとおり認知度が高かった。⑨オケも比較的認知度が高かったが、これは現在でもカラオケが人気であるという社会の環境を反映していると言える。

4 結論

流行語であるための条件が次の二つであることが、本研究による文献調査、アンケート調査の結果、改めて裏付けられた形になったと言える。

- 1 マスコミの影響を受けている
- 2 現在の社会状況を的確に表現している

このことを利用して、今後流行語となる言葉を見つけ出したり推測したりすることも可能だろう。

【参考文献】

- ・湯浅茂雄：生まれることば 死ぬことば, アリス館 (1997)
- ・鈴木哲：暮らしの年表/流行語 100 年, 講談社 (2011)
- ・北原保雄：あふれる新語, 大修館書店 (2009)
- ・蓮見清一：[難解]死語辞典, 宝島社 (2013)